

平成25年度

第10回大分県教育委員会 会議録

日 時 平成25年8月9日(金)
開会13時00分 閉会15時31分

場 所 教育委員室

平成25年度
第10回大分県教育委員会

【議 事】

1 議 案

- 第1号議案 教職員の懲戒処分について
- 第2号議案 教職員の懲戒処分について

2 教育委員会討議

- 地域とともにある学校づくりについて
 - ・コミュニティースクールの概要について
 - ・学校状況の説明（玖珠中学校、戴星学園）
 - ・学校運営協議会委員との意見交換

3 報 告

- 北部九州総体について
 - ・大分県代表校・代表選手の成績について
 - ・フェンシング競技選手等の体調不良について

4 その他

【内 容】

1 出席者

委 員	委員長	岩 崎 哲 朗
	委員長職務代理	松 田 順 子
	委員	波多野 順 代
	委員	麻 生 益 直
	委員	林 浩 昭
	教育長	野 中 信 孝

欠席委員なし

事務局	教育次長	河 野 盛 次
	教育次長	宮 脇 和 仁
	教育次長	別 木 達 彦
	教育改革・企画課長	佐 野 壽 則
	教育人事課長	藤 本 哲 弘
	教育財務課長	竹 野 泰 弘
	福利課長	大 石 尚 志
	義務教育課長	後 藤 榮 一
	生徒指導推進室長	江 藤 義 義
	特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	高校教育課長	高 畑 一 郎
	社会教育課長	法 雲 淳
	人権・同和教育課長	小 池 昭 太 郎
	文化課長	佐 藤 英 一
	体育保健課長	蓑 田 智 通
	全国高校総体推進局長	荒 川 孝 二
	教育改革・企画課企画監	秋 吉 一 徳
教育改革・企画課主幹	勝 尾 裕 美	
教育改革・企画課主査	釘 宮 隆 之	

2 傍聴人

5 名

開会・点呼

(岩崎委員長)

それでは、委員の出席確認をいたします。
ただいまから、平成25年度第10回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

(岩崎委員長)

本日の会議録の署名委員でございますが、麻生委員にお願いしたいと思っております。

会期の決定

(岩崎委員長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりであります。
会議の終了は15時10分を予定しております。
よろしく申し上げます。

議 事

(岩崎委員長)

それでは議案の審議に移ります。
本日の議案は2件です。

はじめに、会議は原則として公開することとなっておりますが、会議を公開しないことについてお諮りします。

第1号議案及び第2号議案は人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。
公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

それでは第1号議案及び第2号議案の2件は、非公開といたします。

本日の議事進行は、はじめに非公開による議案を行い、その後13時55分より公開による教育員会討議、報告を行います。

それでは、非公開の議事を行いますので、関係課室長のみ在室とし、その他の課室長及び傍聴人は退出してください。

4課（教育改革・企画課、教育人事課、
高校教育課、義務教育課）在室

【議案】

第1号議案 教職員の懲戒処分について

（岩崎委員長）

それでは、第1号議案「教職員の懲戒処分について」提案を求めます。

（説明）

（岩崎委員長）

何かご意見ご質問はありませんか。

（質問、意見）

（岩崎委員長）

それでは、ただ今、提案のありました第1号議案の承認について、お諮りいたします。第1号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

（採決）

第1号議案については、提案どおり承認します。

第2号議案 教職員の懲戒処分について

（岩崎委員長）

それでは、第2号議案「教職員の懲戒処分について」提案を求めます。

(説明)

(岩崎委員長)

何かご意見ご質問はありませんか。

(質問、意見)

(岩崎委員長)

それでは、ただ今、提案のありました第2号議案の承認について、お諮りいたします。第2号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決)

第2号議案については、提案どおり承認します。

【教育委員会討議】

(岩崎委員長)

それでは、教育委員会討議を行います。今回の内容は、「地域とともにある学校づくり」についてです。

本日は、豊後高田市立戴星（たいせい）学園、玖珠町立玖珠中学校の関係者も参加していただいているので簡単に自己紹介をお願いします。

それでは、討議を始める前に「コミュニティースクールの概要」及び「各学校の状況について」説明をお願いします。

〈説明概要〉

- ・ コミュニティ・スクールの制度と導入のねらい・本県の指定状況等（後藤義務教育課長）
- ・ 玖珠町立玖珠中学校における学校運営協議会の実際（玖珠中学校 宗岡校長）
- ・ 豊後高田市立都甲小・中一貫戴星学園における学校運営及び地域との連携（戴星学園 松成学園長）

(林委員)

コミュニティ・スクールの導入によって子ども達の状況に変化はありましたか。

(玖珠中学校・宗岡校長)

昨年度は学校協議会委員と生徒が意見交換等を行いました。地域の一員としての意識が高まっています。ふれあいを楽しむことができます。生徒も思いがしっかりとあるので、今年度は（玖珠）町長さんに意見を述べるなど発展させたいです。

(林委員)

学校を開かれたものにするためにクリアしなければならないことはどのようなことですか。

(戴星学園・松成学園長)

地域からの支えが大きいです。推進委員の方は2日に1回は学校に来てくれています。

(戴星学園・藤原推進委員長)

新しい学校づくりは大変でした。多少の期間だけの連携では意味がないと思っています。

(戴星学園・松成学園長)

(豊後高田市) 教育長から「みんなが協力するにはどうすればよいのか」ということについて強い働きかけがありました。都甲の自然を生かして、材料については、各家から無償で提供できるものは提供してもらうということで、道路に近い山林の持ち主が協力し、木材を使ったぬくもりのある校舎ができました。それが、連携の手始め。

協育ネットワークがとてもよかったです。そのコーディネーターの活躍でコミュニティ・スクールへの移行がタイミングよく行われました。

高齢化が進むこの地域では、学校の発展プラス地域のお年寄りの生き甲斐が生まれます。この取り組みは意義がある。運動会で地域に長く続いていましたが途絶えていた太鼓を披露する予定で、今、子どもたちに指導しています。

(岩崎委員長)

豊後高田市は行政トップの意気込みにより学校運営の活性化が進んでいると捉えられます。

(玖珠中学校・梅木協議会委員)

玖珠中学校の場合は、梶原前校長の働きが大きいです。生徒が荒れていて先生方も大変だった学校をあっという間に変えていきました。コミュニティ・スクールを導入することで、学校の支援者も出てきて、急激に変わりました。学校は指導者によってこんなに変わるのかと驚きました。説明しにくいですが、学校が変化したことについては大分県教育委員会にもお礼を言いたいです。宗岡現校長も頑張っています。

学力については、数学の確認テストに協力してきました。初めは半信半疑でしたが、長く続けることで、生徒が変わってきました。態度がよくなりました。コミュニティ・スクールはやり方次第で学校が変わることを強く言いたいです。

(玖珠中学校・久保協議会委員)

玖珠中の学力が向上したことについて(玖珠)町教育委員会は、もっと町民に知らせる必要がある。子どもに自信と誇りをもたせることが大事だと思います。

ステップ・アップ講座にも参加しているが、気になるのは文字が汚いということです。先生方が子どもたちを焦らせています。スピードと量を求めています。じっくり、正確に取り組ませることが大事ではないかと感じています。義務教育では、「読み・書き・そろばん」が大事。ゆっくり読ませることをもっと大事にしてほしいと思っています。

(林委員)

先生方だけでは気付かない大事なことを地域の方が気付いていることがあります。

(岩崎委員長)

学校運営協議会での協議が学校運営の活性化に繋がるにはどうあればよいですか。

(玖珠中学校・安達協議会長)

学校運営協議会の会議では、課題が多すぎても駄目。一つ、二つに絞って意見交換会をすることで深まりが生まれます。提案が多くてもよくないです。「熟議」が長くできることが大事であると考えています。

(戴星学園・藤原推進委員長)

豊後高田市はケーブルテレビの活用が大きな役目を果たしています。〇〇校ではこうしていました。うちの学校もできるのではないか、そのような共通の課題から協議が始められます。

(岩崎委員長)

豊後高田市は行政のリーダーシップと管理職の力が発揮されることで地域との連携が進んでいると感じました。一方、玖珠中の場合は、管理職のリーダーシップがコミュニティ・スクールの充実を進めています。違いはあっても、いずれにせよリーダーシップが発揮され、組織的に進めていくことに両校の良さがあります。

(玖珠中学校・梅木協議会委員)

ボランティアに徹する人をどれだけ集められるかが、コミュニティ・スクールが成功するか否かの鍵。コミュニティ・スクールの推進は地域の人も元気になります。県教育委員会もそのよさをもっと認知されるように広報するなど頑張ってもらいたいです。

(野中教育長)

玖珠中の取り組みでは、コミュニティ・スクールによって何をするのか、子どもをどう変えるのか、教職員をどう変えるのか、これを明確にしていくことが大事だと感じました。

(戴星学園・河野教頭)

地域の力を借りるだけでなく、地域と触れあうことで、地域の人にも元気に過ごしてほしいと思っています。今までは、学校が求めることが多かったです。昨年度からは地域の人の集まりに教職員が出て行くことを始めました。そのことで教職員も意識が変わってきました。

(玖珠中学校・安達協議会長)

玖珠町にある4つのコミュニティの一つとして、よい意見が子どもたちから出されています。それが町行政に伝わる場がないです。子ども議会を10月に開く。子ども議会の応援を県教委からもお願いしたいです。統合する学校の姿や学校の困りなどについて意見が出される子ども議会は、みなさんの地域にもできたら、子どもたちの励みになります。

(岩崎委員長)

コミュニティ・スクールの目的は、地域の意見を反映させることで学校運営を活性化することにあります。逆に、学校が地域に果たす役割の大きさにも気付きました。この制度は行政との直接のパイプはそもそも想定していないので、地教委で直接議論していただく方向で進めてほしいです。県教育委員会は市町村教育委員会にアドバイスできると考えます。

以上で教育委員会討議を終わりたいと思います。学校関係者の皆さんありがとうございました。

【学校関係者は、退席】

【報 告】

①北部九州総体について

・大分県代表校・代表選手の成績について

(岩崎委員長)

それでは、報告第1号「大分県代表校・代表選手の成績について」報告をしてください。

(蓑田体育保健課長)

「北部九州総体」での本県代表校・代表選手の成績について御報告いたします。

7月28日に開幕いたしました本大会ですが、本県は29競技に42校564名が出場しております。昨日までに23競技が終了しております。残すところ水泳、ヨット競技など6競技となっており、現在も本県代表選手は上位入賞をめざしてがんばっているところでございます。

それでは別紙の入賞一覧を御覧下さい。

この資料は、昨日終了時点でのベスト8以上に進出した本県代表校・選手の一覧でございます。

上段の優勝競技を御覧ください。

バレーボール競技女子におきまして、東九州龍谷高校が今大会第1号となる優勝をみごと成し遂げました。東九州龍谷高校の優勝は2年ぶり6回目となります。個人競技ではカヌー競技男子カナディアンシングル200mにおいて楊志館高校の森田考博選手、自転車競技男子4km速度競走において日出暘谷高校の黒枝咲哉選手、そして昨日柔道競技男子個人60kg級において柳ヶ浦高校の小倉拓実選手が優勝を成し遂げています。

第2位から第8位までの成績につきましては資料記載のとおりでありますので、御説明を省略させていただきたいと思っております。

全体では昨日現在で15競技40種目におきましてベスト8以上に入賞しております。昨年度の入賞数38種目をすでに越えている状況でございます。今後も6競技が開催されますが、水泳競技やヨット競技など入賞が期待される競技・種目が多くございますので、本県代表選手の入賞数はさらに増える見通しであります。

先ほど、速報が入りまして、柔道男子81kg級で柳ヶ浦高校の金山選

手が準優勝、空手道男子個人組手で柳ヶ浦高校の藤沢選手が3位、剣道女子団体で大分鶴崎高校が3位に入賞しております。

本県での開催競技は8月7日をもちましてすべて終了いたしました。これからも本県代表選手は精一杯上位入賞をめざしてがんばってくれるものと思います。

以上でございます。

(岩崎委員長)

何か質問・ご意見等はありませんか。

(質問・意見無し)

・フェンシング競技選手等の体調不良について

(岩崎委員長)

次に「フェンシング競技選手などの体調不良について」報告をしてください。

(荒川全国高校総体推進局長)

正式には昨日の夜、生活環境部から発表がありましたが、食中毒と検査結果が出たということです。

8月6日、7名の選手・監督が腹痛等で医療機関を受診いたしました。検査を行ったところ、昨日、患者の検体から「病原性大腸菌」が検出されて食中毒ということが確定しました。

直接の原因は8月4日の夕食で、摂食者78名のうち高校総体関係者は55名、有症者数は生徒・監督23名、4県7校が該当しています。内訳は鳥取県、高知県、徳島県、福岡県、その他一般客です。

6日に腹痛で病院で受診し、7日に試合があったのが2校、特に異常を訴えて試合に出なかった生徒は1人もいませんでした。

処分関係については、当該ホテルは営業停止3日間となっています。

今回、熱中症対策、食中毒対策が課題でありました。熱中症については大きな問題はなかったのですが、食中毒が1件出たということで、大会は20日まで続きますので、中心県として他3県に状況を説明し注意をお願いしたところです。

(岩崎委員長)

熱中症についてはいろいろな対策を取ったようですが食中毒に対しては具体的にどのような対策を取ったのですか。

(荒川全国高校総体推進局長)

配宿センターに委託してホテルに配宿するのですが、事前に説明会を実施して、保健所、衛生監視員が細かに説明をしています。これに加えて、保健所による立ち入り検査を実施しています。

(岩崎委員長)

原因については把握できていますか。

(荒川全国高校総体推進局長)

従業員からも菌が検出されているようですが、現在、保健所が調査をしている状況です。

(岩崎委員長)

最後にこの際、何かありましたらどうぞお願いします。

それでは、これで平成25年度第10回教育委員会会議を閉会します。

お疲れ様でした。